

わらべ館だより

ギャラリー - 童夢企画展 「雛と天神」

流し雛、土天神などの節句に関する鳥取の郷土玩具
約20点を展示

開催中 6月17日(火)まで
午前9時～午後5時



土天神



唱歌教室(春編)

とき 4月1日(火) 3日(木) 8日(火)
午前11時～、午後2時～
ところ 1階木造教室(要入館料)

4月の休館日は16日です。

問い合わせ先

わらべ館 (西町三丁目202・ 22 7070)

やまびこ館への招待

鳥取市・釧路市姉妹都市40周年記念企画展

移住と移民の歴史展・北海道
～故郷 鳥取からの旅立ち～
開催中 5月18日(日)まで

バスツアー参加者募集!

展覧会と、移住ゆかりの場所をバスで訪ねるツアーです。

とき 5月5日(祝) 午後1時～午後5時
行程 やまびこ館・仁風閣で開催中の展示をご覧いただき(学芸員の解説付) 出港の碑・賀露神社・東善寺などを見学します。

定員 先着30人

申込方法 電話による受付

申込締切 4月18日(金)

参加費用 一般3,500円、70才以上の方と中・高校生は2,500円、小学生以下無料(ただし保護者同伴)

参加者には、展覧会図録・記念冊子をプレゼント!

問い合わせ先 やまびこ館(上町88・ 23 2140)

市民図書館の
司書が調べます

まちで見つけた「なんでだろう?」



若桜橋の四隅にあるモニユメントは、昭和三十年十一月橋の拡張工事にもなつて造られたものです。その三年前の昭和二十七年四月十七日、鳥取市街は前代未聞の大火事に見舞われました。当時あつた一万三千世帯の約半分、五千二百八十七世帯の市民が焼け出されたといえますから、火災のすさまじさが分るでしょう。火事後の若桜街道の復旧工事で、「復興鳥取のシンボルになるような橋を」という市民の願いを受け、岩美町出身の彫刻家・山本兼文氏(一九一八～一九九二)の手によって誕生したのが、この斬新

なモニユメントなのです。ところでこのモニユメントは、よく「鳥(あるいは「と」の字をくずしたものだ」と紹介されています。でも、山本氏は雑誌『地平線』第八号で角秋勝治氏のインタビューに答えて、「そんなイメージがある」とすれば偶然的な符合で、文字

望が象徴化された若桜橋。当時の人々は一体どんな思いをこめて渡つたのでしょうか。今度、橋を通るとき、そつと触れてみてください。当時の人々の心が伝わってくるかも知れませんよ。

の意図はない」とはつきり否定しています。そして、「大火で暗い空気に包まれていた市民に、回りながら高く上昇する不死鳥のような力強さと、平和な明るい希望を与えたい」という考えから、螺旋状のデザインを発想したのだと明かしています。

